



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

東京・救ボラ通信

2021年 1月 1日 第21号

発行：日本赤十字社東京都支部 東京都赤十字救護ボランティア活動推進協議会
〒169-8540 東京都新宿区大久保1-2-15 TEL03-5273-6744

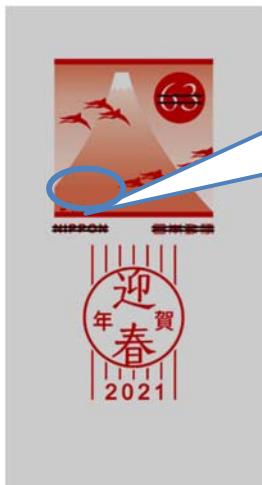
【第21号の内容】

- ・2021年もよろしくお願ひいたします 1P
- ・2020年の活動を振り返る 2P
- ・東京都・北区合同総合防災訓練を実施しました 3P
- ・新型コロナウイルスに対する感染防護具の作成 5P
- ・多摩広域防災倉庫及び武蔵野救護倉庫救援物資の整理作業 8P
- ・救護ボランティア・オンライン研修会等開催開始 9P
- ・Withコロナで変わる研修 14P
- ・人権研修について、開催経緯と、人権相談窓口のご案内 15P
- ・編集後記 16P

2021年もよろしくお願ひいたします。

【2021年の年賀状】例年は年賀状を送っているが56.8%、(n=1,600)例年は送らないがコロナの影響で「今年は送る」22.9% (n=35) (日本トレンドリサーチ)でした。理由は友人・知人と会う機会が少なくなったため。交流の回数が減ったから。感染していないか健康かなど知りたい。仕事への影響等の近況報告も含めて、などです。皆さんはいかかでしたか？ 年賀状の料額印面のデザインは毎年恒例年賀はがきの『隠し文字』などデザイナーの皆さんのが遊び心が詰まったデザインの一部を紹介します。

まだまだあるので探してみてください。



無地「初日に鶴」

令和「3」年にちなんだ「3」頭の牛です
牛の模様が「NewYear」の文字になっている



インクジェット「ハッピーカウベル」

「福」の字に「うし」の字が書かれています



写真用「幸せギュウギュウ」

「牛」にちなんで「ぎゅうぎゅう」にお宝が積まれています



背負った俵の中に「丑」の字が隠れています

しめ飾りの中にも「丑」の字が隠れています



丑の文字の中に牛が2頭います



市松模様の中に「丑」の文字と紅白の梅



ディズニ一年賀

絵入り全国版「丑牛」

オリジナル大「『丑』の字にうし」

オリジナル小「市松文様に紅白梅と『丑』の字3つ」

2020年の活動を振り返る

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う感染拡大防止のため、総会は初めての文書決議による総会。

「新しい生活様式」が推奨されるなかで、工夫をしながらどこまで、今までの様な活動ができるのか模索してきました。集合しての活動は、①令和2年7月豪雨災害救援物資搬出作業(7/8) ②災害救援物資搬出入作業(8/4) ③東京都・北区合同総合防災訓練(11/22) ④多摩広域防災倉庫及び武藏野救護倉の整理(11/30)

自宅でできる活動として① “感染防護具の作成”
②リモートによる災害救護講座 “新型コロナウィルス感染症流行下における防災について”

【7月8日 令和2年7月豪雨災害にかかる救援物資搬出作業】



救援物資搬出作業の様子



令和2年7月8日にオクレンジャーにて緊急招集があり、平日にも関わらず17名の方が東京都赤十字血液センター立川事業所においてタオルケット4,700枚の搬出作業をして頂きました。

【8月4日 救援物資搬出入作業】 多摩広域防災倉庫から搬出、日野市市民の森ふれあいホールに搬入

8月4日（火）に多摩広域防災倉庫から日野市市民の森ふれあいホールに救援物資（毛布×36箱、バスタオル×72箱、緊急セット×5箱）を配備しました。

・多摩広域防災倉庫、8名参加 ・日野市市民の森ふれあいホール、3名参加 計 11名

・多摩広域防災倉庫 搬出作業



多摩広域防災倉庫救援物資搬出作業の様子

“気象のメカニズムと気象情報について(気象台)
“「私たちは、忘れない。」～未来につなげるプロジェクト～”が開催され特定の会場に行かずに済む、大変効率的、移動によるリスクがなく参加できるなどの理由から毎回60人近い参加者がありました。

他に、リモートによる救ボラ協議会の定例会議。支部、協議会役員との打合せなど実施しました。防災教育事業指導者（旧減災普及員）に登録されている方には救護課 防災業務係によるリモート研修や講演会が実施されました。

・日野市市民の森ふれあいホール 搬入作業



日野市市民の森ふれあいホール 搬入作業の様子

日野市市民の森ふれあいホール
防災倉庫

東京都・北区合同総合防災訓練に参加しました

令和2年11月20日(金)から22日(日)、北区立中央公園(十条台1-2-1)周辺を中心に区内各所において、東京都と北区合同での総合防災訓練が実施されました。この防災訓練は、都が都内自治体と合同で毎年実施するものです。マグニチュード7.3の首都直下地震が発生した想定のもとコロナ禍における震災を想定した実践的な訓練を行った。新型コロナウィルス感染症拡大対策として、一般の来場者を一部制限。22日の大規模な訓練は、事前の申し込み(※北区在住の方限定)により当選した方のみ参加されました。11月22日は、区民参加型の体

験ブースのほか、陸上・航空自衛隊や東京消防庁、警視庁などによる倒壊建物等からの救出救助訓練などが行われ、1,000名の一般来場者がありました。

日本赤十字社東京都支部は、赤十字展示ブースにおいて新型コロナ感染症に対するパネル展示等赤十字事業の紹介と心肺蘇生法の体験、止血と包帯法の実演、北区奉仕団による非常食の配布を行いました。赤十字救護ボランティアには当初搬送及び傷病者役を依頼され30名の参加予定でしたが、東京都から新型コロナウィルス感染症拡大対策の指示があり、参加を辞退させて頂きました。

なお、北区赤十字奉仕団への炊出しサポートとして3人が参加しました



東京消防庁・倒壊建物救出訓練の様子



訓練開始前の訓示



炊き出し釜の準備 ミヤハラバーナーなかなか点きません



北区赤十字奉仕団による炊出し釜自主訓練



心肺蘇生法・AED体験コーナー



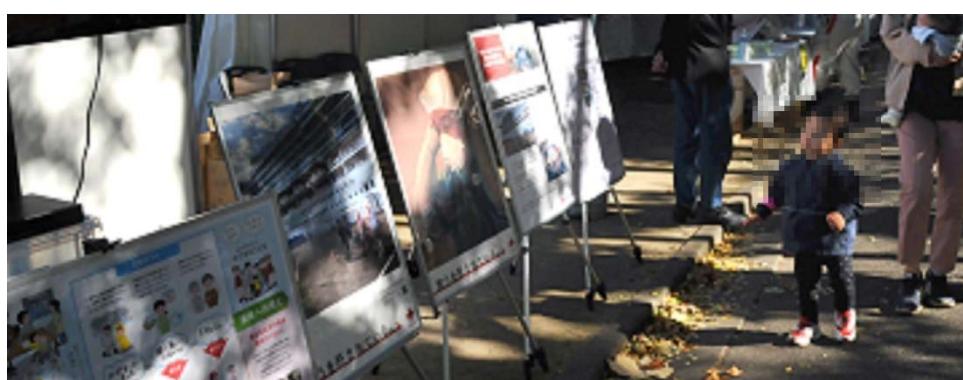
北区赤十字奉仕団の非常食配布



心肺蘇生法・AED体験コーナー



心肺蘇生法・AED体験コーナー



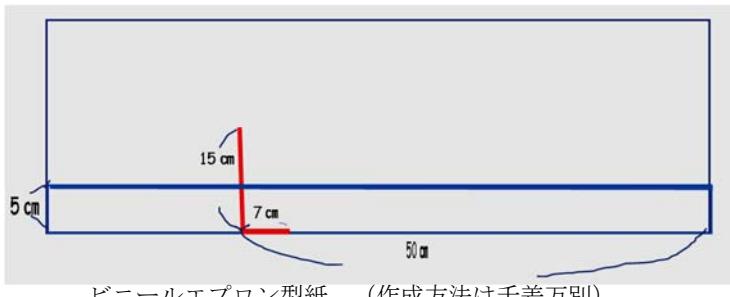
新型コロナ感染症に関するパネル展示を見入る子ども



新型コロナウイルスに対する感染防護具の作成 フェイスシールド・ビニールエプロン作り

日本赤十字社では全国の赤十字病院を中心とし新型コロナウイルス感染症の治療および感染拡大防止のための活動に取り組んでいますが、どの病院でも深刻な感染防護具不足です。

第2回目は、オクレンジャーにて全救ボラ対象にビニールエプロンのみ最低100枚それ以上10枚単位で、8月14日～8月31日までに協力者を募集したところ、51名の方から協力の返事を頂き、材料は支部から送付し、作成後支部へ返送してもらう方法で、6,960枚を作成して頂きました。各自作成方法は千差万別、いろいろ工夫されました。協力に対して大森赤十字病院 院長中瀬浩史様より、礼状と感謝のメッセージを頂きました。



田島氏の型紙による作成。2分30秒で2枚作れます。
(横浜のエプロンです。首回りがきれい)

青少年・ボランティア課からの依頼で大森赤十字病院用のフェイスシールドやビニールエプロンを4月27日から6月13日まで15名の方に作成して頂きました。(関連記事:東京・救ボラ通信第20号)



支部に送られたビニールエプロン



大森赤十字病院看護部 青少年・ボランティア課の作成



ビニールエプロンの着用方法

大森赤十字病院からの礼状

令和2年 7月

東京都赤十字救護ボランティア活動推進協議会 御中

大森赤十字病院
院長 中瀬 浩史

謹啓 平素から赤十字の医療活動に対し、格別のご理解とご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

さて、この度は医療防護具の作成にご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。当院では2月末より新型コロナウイルス感染症対応を行い、ひとりでも多くの命を救いたいという想いで、様々な職種のスタッフが知恵を出し合い、一丸となって、患者さまの対応にあたってまいりました。指定感染症医療機関ではない当院がこうして未知のウイルスと闘い、幅広く医療を展開できましたのも、支えてくださる皆さまのお力添えによるものと思っております。

ご作成いただきました医療物資につきましては、新型コロナウイルス感染症対応に従事しているスタッフのみならず、検査やリハビリ、事務スタッフなども含め院内全部署にて有効に活用をいたしました。

心ばかりではございますが、当院スタッフからの感謝のメッセージを同封いたしますので、ぜひお納めいただければ幸甚に存じます。

依然として都内の医療現場では緊迫した状況が続いておりますが、皆様からの温かいご支援を励みに、今後も全スタッフが一丸となって、安心・安全な医療をご提供できるよう努めてまいります。引き続き変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

謹白



新型コロナウイルス対応チムメンバー



多摩広域防災倉庫及び武蔵野救護倉庫 救援物資の整理作業

令和2年1月30日（月）多摩広域防災倉庫及び武蔵野救護倉庫（武蔵野赤十字病院内）において救援物資の整理が行われ、多摩広域防災倉庫に6名、武蔵野救護倉庫7名の協力を頂きました。

作業は多摩広域防災倉庫から毛布2,650枚（265箱）を武蔵野救護倉庫に移動、緊急セット3,600セット（600箱）を40パレットにのせた後、フォークリフトを使用して棚にのせました。



救援物資をフォークリフトで棚に乗せます（多摩広域防災倉庫）



整理後の救援物資（多摩広域防災倉庫内部）

武蔵野救護倉庫（武蔵野赤十字病院内）



ミーティング



エレベータで2階へ



武蔵野赤十字病院



多摩広域防災倉庫からの救援物資の荷下ろし

多摩広域防災倉庫と違い、武蔵野救護倉庫はフォークリフトもなく、人手が頼りです。



傾斜を利用すると人手が少なくすみます



ローラーコンベヤもスタンドを使うと楽です



救援物資の積み上げはフォークリフトが無いので大変です



整理後の救援物資（武藏野救護倉庫内部）

救護ボランティア・オンライン研修会等 開催

第1回、オンライン災害救護講座「コロナ時代と防災」～新型コロナウィルス感染症流行下における防災について～ NPO日本ファーストエイドソサエティ（JFAS）代表理事 岡野谷純氏



JFAS 代表理事 岡野谷純氏

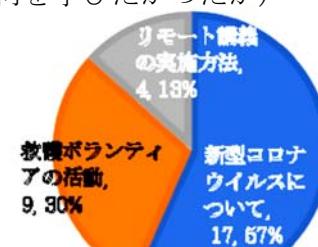
令和2年8月21日（金）19時から21時まで特定非営利活動法人日本ファーストエイドソサエティ（JFAS）代表理事岡野谷純氏による「コロナ時代と防災」事前アンケートによるアンケートでの提起、コロナ時代と防災、救ボラにできること等リモートによるご講義をして頂きました。共有して戴く内容として、①事前資料と最新情

報。②アンケートでの提起 ③テーマに関する提起 ④救ボラ=避難所での支援活動 ⑤コロナ禍でどうしようでなく、情報を整理しポイントを絞る。⑥コロナ禍での心肺蘇生法（日赤都支部のリモート講習会の紹介）⑦救ボラにできることは何があるか。講演後、振り返りシートでアンケートを実施しました。

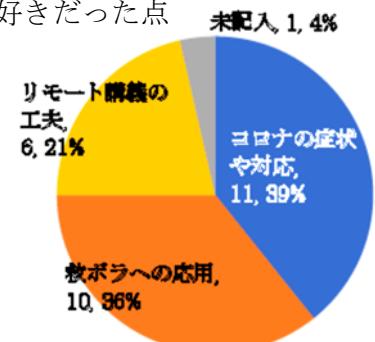
災害救護講座「コロナ時代と防災」研修会振り返シートの集計（資料提供；岡野谷純氏）

参加者数：69人 アンケート数：26人（回答率：37.6%）n=26

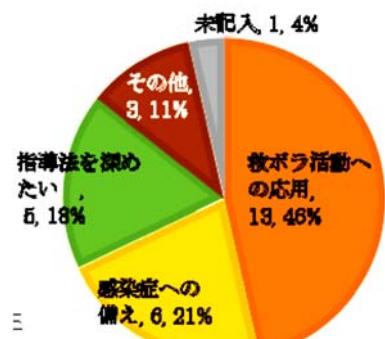
1. 受講の動機 (何を学びたかったか)



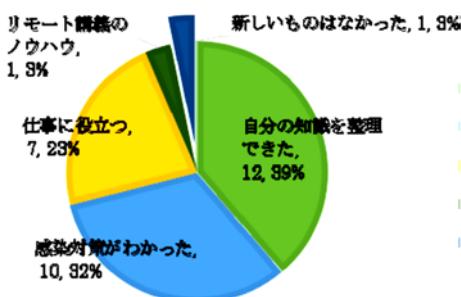
3. 研修の中で印象的だった、あるいは好きだった点



5. 今後学んでみたいこと、 その他学んでみたいこと、その他

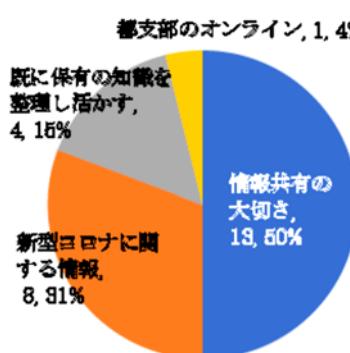


2. 本研修は仕事・生活に役立つか、またその理由



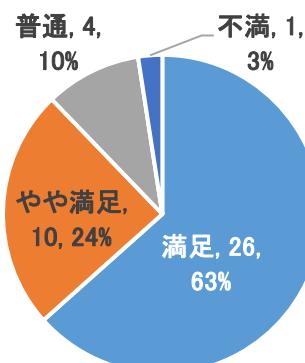
- すでに持っている情報や知識を整理することができた。
- 感染症（新型コロナウイルス）への対策が理解できた。
- 現在の自分の仕事や生活に役立つ

4. これだけは、自宅や職場に持ち帰り、家族・同僚に伝えたい！と思ったこと



- 半数の方が、情報を得るだけでなく、皆で共有してから活動をすることが大切。また最新情報を更新する必要があることも伝えたいと回答しています。
- 新型コロナに関する情報の具体的な項目としては、感染経路の種類、まず自分を守ること、油断しない、保護具にも限界がある
- 扇風機の活用、さらしマスクを買う・作るなどすぐに実現したいという声がありました。

講演会の満足度 n = 41



満足度は、満足が63%、やや満足が24%、87%の方が満足と回答しました

夜間にもかかわらず69人（*参加申込者）の参加者がありました。初めてのオンライン講座であり、手探り状態でしたが、講演会やF U研修等オンラインで今後実施して行く上での手ごたえを感じました。

第2回、オンライン災害救護講座「気象のメカニズムと気象情報について」

気象庁 東京管区気象台 気象防災情報調整官 永井佳実（よしみ）氏

令和2年8月22日（土）10時～12時まで、第2回災害救護講座「気象のメカニズムと気象情報について」東京管区気象台の永井佳実氏によるリモート講演会が支部大会議室より発信された。講演会は昨日の「コロナ時代と防災」連日の為か若干少なく57人の参加でした。前半は天気の一般的な知識（・大気の構造・太陽放射・雲の発生の仕組み等）について

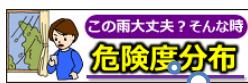
後半は、気象情報について（・令和元年東日本台風（台風第19号）の例・令和2年7月豪雨・気象情報の利用の仕方）など分かりやすくご講義頂きました。気象情報の利用の仕方については気象庁ホームページ <http://www.jma.go.jp/jma/index.html> を活用してほしいとの事でした。



気象防災情報調整官
永井佳実氏

気象情報の利用の仕方

- ① 災いから逃れるには、何よりも事前の備えが大切。
- ② 防災気象情報は、予測の確からしさや危険度の高まりに応じて、段階的に発表される。
- ③ その時点、その時点で備えを高めて、最善の選択をする。
- ④ 適切な行動は、その時に、パツと思いつくものではありません。普段から考えておくことが大切です。



<https://www.jma.go.jp/jma/dp/jma/ndex.html#/>

気象庁HP



気象庁HPの
危険度分布を
クリック



警報・注意報



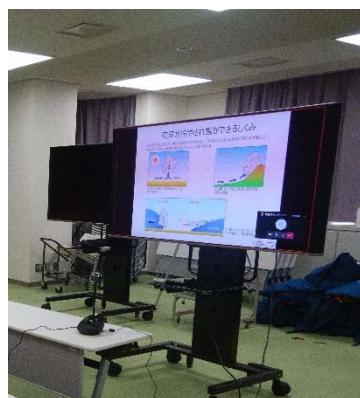
雨雲の動き



オンライン講演中の 永井佳実氏



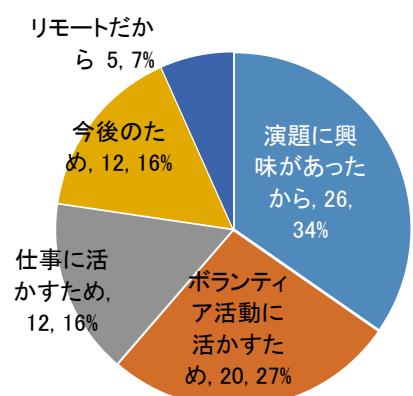
リモート講演中の 永井佳実氏



災害救護講座「気象のメカニズムと気象情報について」アンケート結果

参加者 57人 (*参加申込者) ・アンケート協力者：35人 (回答率：61.4%) n=35

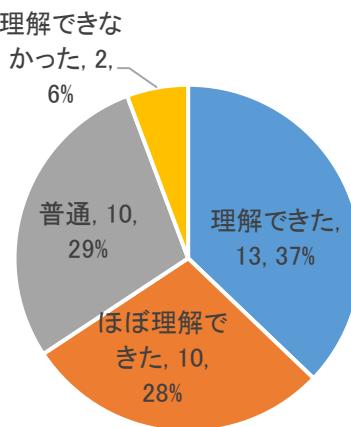
1. 受講動機



受講動機 *複数回答

- ・演題に興味があった 34%
- ・ボランティア活動に活かすため 27%
- ・仕事に活かすため 16%、
- ・リモートだから 7%でした。

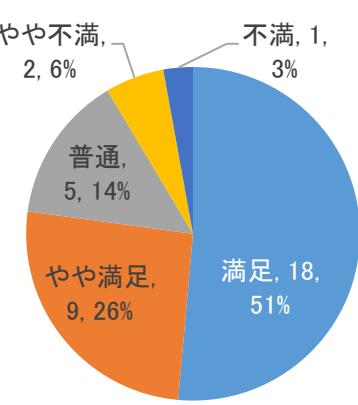
2. 講演会の理解度



講演会の理解度

- ・理解できた 37%、ほぼ理解できた 28%。合わせて 65%の方が理解したと回答しました。理解できなかつた理由はある程度事前の勉強が

3. 満足度



講演会の満足度

- ・51%が満足、26%がやや満足で計 77%の方が満足と回答されました。
- ・不満、やや不満 9%の理由は、①アクセスできなかった。②何も見新しい事の無い当たり前の気象情報ばかり。
- ③大規模災害に結びつく部分に絞って頂いた方がよい。④講義内容の割りに時間が短かった

第3回、オンライン災害救護講座 特別講演「私たちはわすれない」 ～未来につなげるプロジェクト～ 割烹 八幡家 阿部紀代子 氏



割烹八幡家
阿部紀代子氏

東日本大震災から10年を迎えるとしています。令和2年11月28日（土）10時から12時までリモートで“私たちは忘れない”をテーマに石巻に何代も続く老舗の日本料理屋の女将でもある阿部紀代子さまに講演をしていただきました。令和2年3月に実施予定でしたが、コロナの影響で延期となっていましたためこの時期の開催となりました。

震災後に住宅避難を続ける住民と協力し、毎朝の情報共有会、支援物資や清掃ボランティの受入調整など奔走した当時の様子と現状をお話し頂きました。

果たして私たちが維持していくだろうか？

災害から命を守る社会の実現のために明日にでも起きるかもしれない大災害で、「救える命」を一つでも増やすために ①知ること→東北のこと、次の災害のことを調べる ②行くこと→自分の目で見て、感じる、食べる ③寄付の支え→寄付する ④行動すること→家族と話しあう、SNSで発信する。自分だったら、できそうなことはなにか考えてほしい。みなさんへのお願いとして公益社団法人3.11みらいサポートが、10年、20年、30年と東日本大震災を伝え続ける拠点として、「MEET門脇」を建設するので協力してほしいとの話がありました。クラウドファンディングは令和2年12月25日、330人の寄付で達成しました。



伝承と交流の場「MEET 門脇」のパース

講演の中で宮城県沖地震は想定していたが高をくくっていた。心にあっても実際の備えはかなり甘いものだった。

・家や職場の近くの道を歩くとき⇒危険はどこにあるか。・家族がバラバラで被災したとき⇒安全確保と連絡方法。様々な場面を想像して、皆様には備えて頂きたい。震災後10年を目前にした石巻は復興どころか人口減少（震災時16万人現在2万人近く減っており、今後も減少が予測。ハード事業は一旦完了したが、かつて商店街だった所が、現在に至っても歯抜けの状態。復興事業の終盤を目の前にして広大な公園ばかりできて



かつての商店街。現在に至っても歯抜けの状態



2011. 11. 27
急ピッチで工事が進められている中瀬



オンライン災害救護講座 参加者

Meet the 3.11, Act for the Future

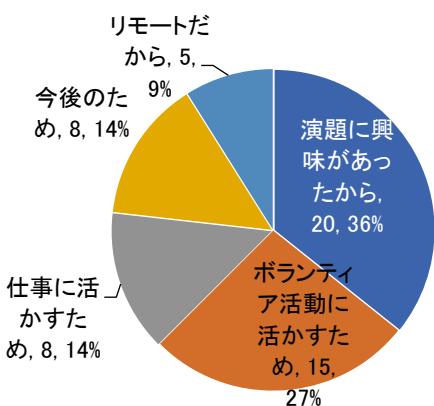
March.11	3.11 を原点に
Education	つながる人々が変化する
Exhibition	悲しみと願いを示す
Theater	命を守れる希望を伝え

*写真は阿部紀代子氏講演資料より使用

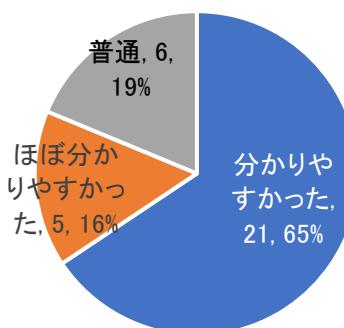
災害救護講座「特別講演「私たちはわすれない」アンケート結果

参加者 56人＊参加申込者) ・アンケート協力者: 32人 (回答率: 57.1%) n=32

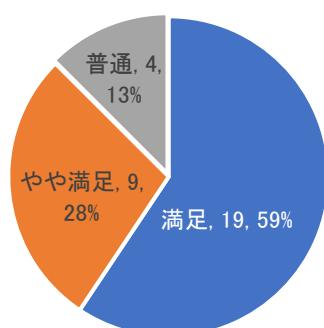
1. 受講動機



2. 理解度



3. 講演会の満足度



4. 「私たちは忘れない」を視聴して、何が支援できると思いますか？

＊原文紹介

- ① 今後、講習が普及したら、忘れないようにお伝えしたいです
- ② ちょっとした支援物資を分けるのに時間が掛かる事や、古着の使い方に困る等、現場の様子がわかつたので、支援に活かせると思った。
- ③ まだまだこれからも話を聞いて行くことが大事だと思いました。また伝承館のクラウドファンディングも応援したいと思いました。
- ④ 訪れる それを人に伝える
- ⑤ 中越地震の時ボランティアに行って、避難所で救援物資の分別に携わりましたが、平等にモノを配る事に頭を痛めました。今回視聴して福袋式を是非役に立てたいと思いました。
- ⑥ 自分の地域が被災することを考えると、自分自身や家族の安全の確保から始まり、隣近所、町内会、社協など自治体への協力と、徐々に広げられるといいのではと思いました。
- ⑦ 当時、会社の職務として社員ボランティアを募り現地へ歳の数ほど赴いた経験があります。
- ⑧ コロナ禍の為行けないですがコロナが収まれば東北に行きその土地の物を買ったりしたいと思いました。クラウドファンディングも出来ればやりたいと思いました。
- ⑨ コロナ禍が収まつたら、現地に行きたいです。
- ⑩ 視聴して「自分のできる事はなんだろう。やりたい!と考える気持ちが沸く。でも社会的にみて孫や嫁の手伝いや人生の終焉を考える年であり、若い者に人様を助ける活動は譲るべきであり「邪魔！」な存在と言われる。
- ⑪ ボランティアとして活動する為に、自分の食料、宿泊、道具などは自分で用意し、ゴミなどは持ち帰る事が最低限必要。
- ⑫ できることがないのですが、被災地の現状を常日頃意識していき続けたいと思います。
- ⑬ 都心での何か有事の時は都内より離れて居る事で、通信手段の中継や補助的な役割のお手伝いは可能です。
- ⑭ 当時、義援金を拠出しました。
- ⑮ 自然災害に続き、コロナ等のパンデミックにより状況が刻々と変化しているため、現状必要とされている援助を出来る範囲でやっていきたい。
- ⑯ 救護ボランティアに登録した理由が、過去の災害を踏まえて自分に何か支援出来ないだろうかと思ったからです。被災地に直前足を運ぶことがでかなくても、支援の方法を考えております。
- ⑰ 思いを寄せて忘れないようにして、コロナが落ち着いたら東北方面に旅行したりする。観光地だけじゃなく、街中にも足を向ける。
- ⑱ 地域での常日頃の交流が必要だと感じました。
- ⑲ 忘れずに今後に活かす
- ⑳ 10年過ぎても「忘れない！」、東日本の人々の心に寄り添う支援をいたしたいと思います。
- ㉑ 10年を過ぎても、東日本の方々の心に寄り添う支（旅行・産地の品々・人との交流）
- ㉒ まだ明確には言えないけど今回のお話を聴かせて頂き注意点、人との接し方は今後に活かせて頂ける大変勉強となると感じています。
- ㉓ 出かけてゆく
- ㉔ 私達もいつ被災するか分からないので、まずは私達の防災力が向上する内容の講習を行って欲しい。



支部別室から会長挨拶



オンライン災害救護講座 参加者

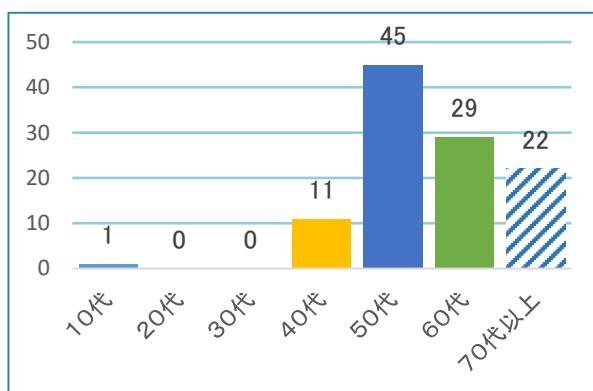
With コロナで変わる研修 ~ 3件のオンライン研修のまとめ ~

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、研修会、講演会及び会議や支部が実施、参加する各種訓練やイベントなどあらゆる活動がオンラインにシフトしています。コロナ禍にあっても方法を探りながら状況に対応するため「コロナ時代と防災」「気象のメカニズムと気象情報について」「私たちはわすれない」などの講演会を開催しました。

オンラインで出来ること対面で出来ることの差が縮まりつつあります。

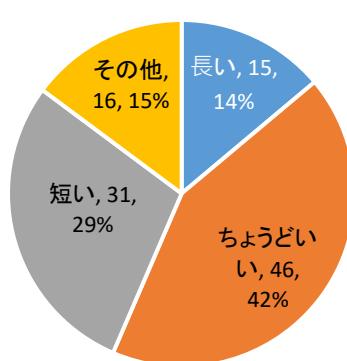
※ 対象者：182人 ・アンケート：108人 (回答率：59.3%) n=108 単位：人・%

1. 参加年代



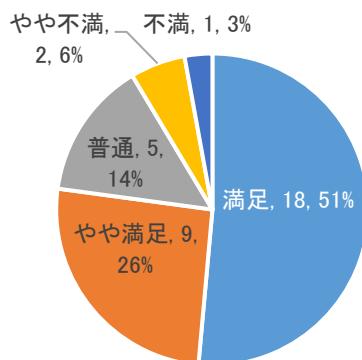
実際に資機材を触るような訓練など、対面でないと難しいとされていますが、「ロープワーク研修」「手話研修」「大型テント展張訓練」なども計画しています。これまで移動や開催時間など拘束時間の関係で参加できなかった人には、参加しやすくなることと思います。今後はオンライン研修のニーズはさらに高まっていくことが予想されます。今できることを見極め、歩みを止めないで実施して行きましょう。

2. 講座時間 (2時間)

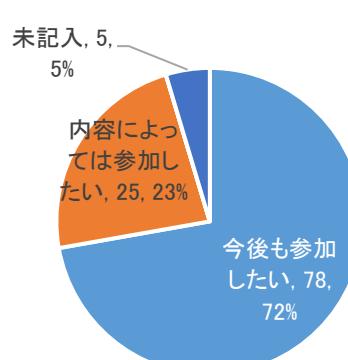


2時間の講座時丁度良いとの回答が42%。短いと感じた人は29%でした。意外な数値でした。

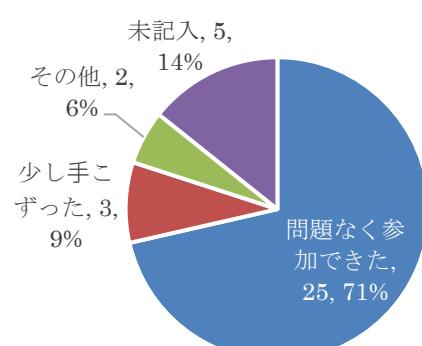
3. 講演会の満足度



4. 今後も参加するか

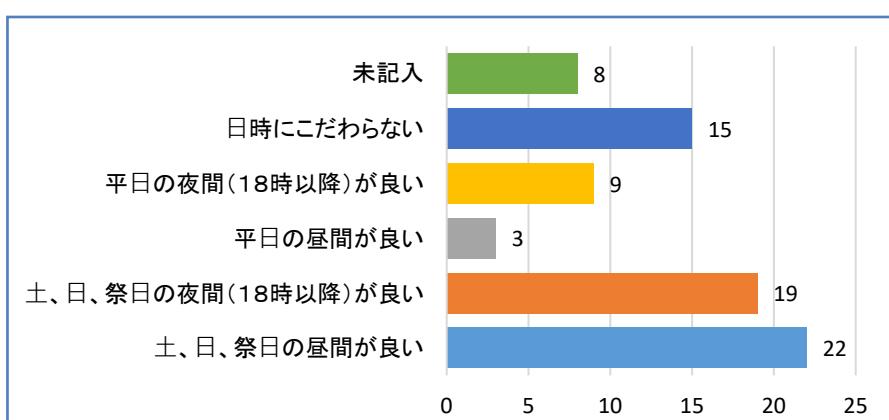


5. Microsoft teams の難易度



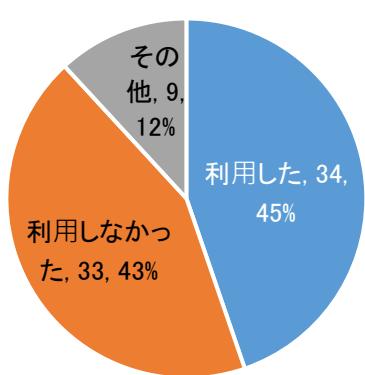
5. Microsoft teams の難易度は72%の方が問題なく参加できました。少し手こずった人は9%でした。

6. オンライン開催時間

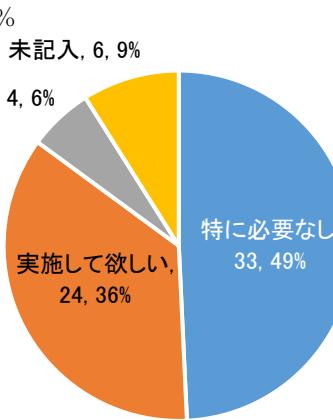


6. オンライン開催時間は土日祭日の昼間希望が29%、土日祭日の夜間が希望は25%で最も多く、日時にこだわらないが20%でした。オンライン研修会等開催日の参考にします。

7. Microsoft teams の事前接続テストの実施

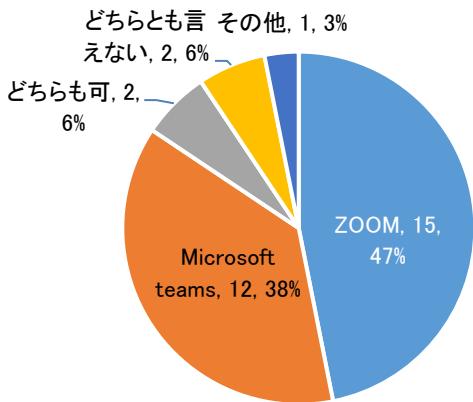
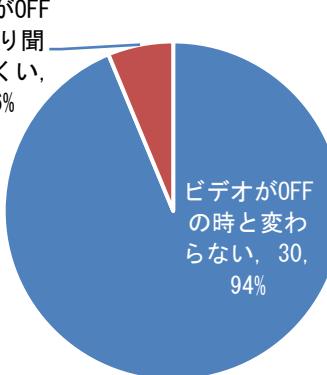


8. Microsoft teams 事前接続テストの実施



9. あなたの利用しやすいオンライン

ツールは何か n=32 単位：人・%

10. 受講者のビデオを全員 ON にした状態の
聞こえ具合 n=32 単位：人・%

今後実施見込みのオンライン講座

- 「人権研修：性別の多様性に関する講演」 ダイビーノン代表 飯田 亮瑠 氏
令和3年1月17日（日）10：00～12：00
 - 「ロープワーク研修：赤十字・救護ボランティアフォローアップ&ステップアップセミナー」
健康安全課、小高 講習係長、救ボラセミナースタッフ
令和3年1月26日（火）19：00～21：00
 - 「手話研修：災害に役立つ手話」 江東区聴覚障害者福祉推進協議会 辰野栄里子 氏、他
令和3年2月20日（火）10：00～12：00
- *コミュニケーションツールはZOOMを使用します。定期的に最新版をダウンロードしておいてください。

人権研修について

開催経緯と、人権相談窓口のご案内

日本赤十字社のミッションステートメントとして「わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを集結し、いかなる状況下ででも、人間のいのちと健康・尊厳を守ります。」とあります。救護ボランティアにおいても共有し徹底することが大切です。日頃の訓練や指導において、気が付かないうちにハラスメントで傷つけていませんか？

2016年より、救ボラ必須研修と位置づけ、毎年12月の人権週間に合わせて、人権研修を実施しています。

2017年から（公財）人権教育啓発推進センターの会員となり今日に至っています。

公益財団法人人権教育啓発推進センター様より人権相談窓口のご案内を頂きましたので参考にしてください。



人権相談窓口のご案内

私たちが暮らす社会にはさまざまな人権問題があります。高齢者や障害者、子どもへの虐待、女性へのDV、職場におけるハラスメントなどの他に、最近では新型コロナウイルスの感染者や医療従事者への差別や誹謗中傷の事案も発生しています。

こうした被害を受けた方やそれを見聞きした方が相談するための電話やインターネットによる受付窓口(全国の法務局・地方法務局)をご案内します。

※相談料無料、相談内容の秘密は厳守されます。

■みんなの人権110番(様々な人権問題)

(全国共通) 0570-003-110 (ゼロゼロみんなのひやくとおばん)

■子どもの人権110番(いじめや虐待など子どもの人権問題)

(全国共通・通話無料) 0120-007-110 (ぜろぜろななのひやくとおばん)

■女性の人権ホットライン(セクハラ・家庭内暴力など女性の人権問題)

(全国共通) 0570-070-810 (ゼロゼロナナのハートライン)

■インターネット人権相談受付窓口(PC・携帯電話・スマーフォン共通)

インターネット人権相談 <https://www.jinken.go.jp/>

子どもの人権 SOS-Eメール <https://www.jinken.go.jp/kodomo>

■SNS(LINE)による人権相談(様々な人権問題のLINEによる相談)

以下の検索ID・QRコードからLINE公式アカウント

「SNS人権相談」を友だち登録してご相談ください。 検索ID @snsjinkensoudan



編集後記

2020年の活動を振り返り、この一年、日赤救護ボランティアとしてどの様な活動ができたでしょうか? 何もできなかつたと思う人、それなりにできたと感じる人、様々です。新型コロナウイルス拡大により「新しい生活様式」で生活が制限され、私たちを取り巻く環境は大きく変わりましたが、私たちの3つの領域、「いのちを救う」「せいかつを支える」「ひとを育む」は達成できなくなつたわけではありません。

むしろ今まで以上に活動をして行くことが求められます。オンライン向けツールは日々開発されています。研修や講演会のオンライン化は費用面や移動に係る時間的拘束などの解放からWithコロナの時代が続いても、収束したとしても、オンライン研修のニーズはますます高まって行くと思います。

昨年は3件のオンライン講演会を開催しました。集合形態より参加者も多く、その場で参加できることから意見も好意的でした。これからもオンライン研修がふえることから、各種コミュニケーションツール(Zoom、teams等)の操作方法や最適なオンライン環境を各自構築していくことが望まれます。

TK



日本赤十字社

Japanese Red Cross Society

東京都赤十字救護ボランティア活動推進協議会

〈事務局〉

日本赤十字社東京都支部 事業部 救護課

〒169-8540 東京都新宿区大久保1-2-15

E-mail gvol@tokyo.jrc.or.jp

TEL 03-5273-6744 FAX 03-5273-6749